

一橋大学の沿革

1875年(明治8年)	8月	森有礼が東京銀座尾張町に商法講習所を私設する。
	9月	商法講習所の開設を東京会議所から東京府知事に届け出る。 この日、9月24日を一橋大学創立記念日とする。
	11月	商法講習所は東京会議所の管理に委任される。
1876年(明治9年)	5月	木挽町に移転し、東京府立となる。
1884年(明治17年)	3月	農商務省の直轄となり、東京商業学校と改称する。
1885年(明治18年)	5月	文部省の直轄となる。
1887年(明治20年)	10月	高等商業学校と改称する。
1902年(明治35年)	4月	東京高等商業学校と改称する。
1920年(大正9年)	4月	東京商科大学となり、大学学部のほか予科、附属商学専門部、附属商業教員養成所を設置する。
1925年(大正14年)	9月	創立50周年記念式を挙げる。
1926年(大正15年)	9月	勅命により、官制上初めて本学に附属図書館が設置される。
1930年(昭和5年)	12月	国立校舎が完成し移転する。
1933年(昭和8年)	8月	予科が小平校舎に移転する。
1944年(昭和19年)	9月	東京産業大学と改称する。
1947年(昭和22年)	3月	東京商科大学の旧名にもどる。
1949年(昭和24年)	5月	東京商科大学を改組し一橋大学とし、商学部、経済学部、法学社会学部を置く。 新制の一橋大学に前期部を設ける。
1951年(昭和26年)	4月	法学社会学部を法学部と社会学部とに分離し、4学部とする。
1953年(昭和28年)	4月	大学院を設け、4研究科を置き、修士課程及び博士課程を設置する。
1975年(昭和50年)	4月	商学部を拡充改組し、商学科および経営学科の2学科とする。
	10月	創立100周年記念式典を挙げる。
1995年(平成7年)	10月	創立120周年記念式典を挙げる。
1996年(平成8年)	4月	言語社会研究科(独立研究科)を置き、修士課程及び博士課程を設置する。
	5月	学内共同教育研究施設として留学生センターを設置する。
	5月	小平分校を廃止する。
1997年(平成9年)	4月	産業経営研究施設をイノベーション研究センターに改組する。
	4月	社会学研究科に地球社会研究専攻(独立専攻)を設置する。
1998年(平成10年)	4月	経済学研究科を大学院重点化し、経済学部の基礎課程、応用課程を経済学科に改組する。
	4月	国際企業戦略研究科(独立研究科)を置き、修士課程及び博士課程を設置する。 (学生受入は、修士課程が平成12年度、博士課程が平成14年度から)
1999年(平成11年)	4月	法学研究科を大学院重点化し、法学部の第一課程、第二課程、第三課程を法律学科に改組する。
2000年(平成12年)	4月	商学研究科を大学院重点化する。
	4月	社会学研究科を大学院重点化し、社会学部の社会理論課程、社会問題・政策課程、地域社会研究課程を社会学科に改組する。

	10月	創立125周年記念式典を挙げる。
2003年(平成15年)	4月	国際企業戦略研究科を改組し、専門職学位課程を設置する。
	4月	大学教育研究開発センターを設置する。
	5月	小平国際キャンパス完成記念式典を挙げる。
2004年(平成16年)	4月	国立大学法人一橋大学となる。
	4月	法科大学院(専門職学位課程)を設置する。
	8月	北京事務所を開設する。(～2010(平成22)年3月)
	10月	学生支援センターを設置する。
2005年(平成17年)	4月	国際・公共政策大学院(専門職学位課程)を設置する。
2010年(平成22年)	2月	留学生センターを改組し、国際教育センターを設置する。
	5月	中国交流センターを設置する。
	9月	創立135周年・国立移転80周年記念式典を挙げる。
2011年(平成23年)	3月	研究機構を設置する。
2012年(平成24年)	3月	産学官連携推進本部を設置する。
2012年(平成24年)	4月	イノベーション研究センターを商学研究科の附属研究施設とする。
2014年(平成26年)	4月	男女共同参画推進本部を設置する。
		森有礼高等教育国際流動化センターを設置する。
		小平研究保存図書館を設置する。
2014年(平成26年)	5月	社会科学高等研究院を設置する。

(一橋大学案内2017より)